

Book Review

世界基準の臨床歯内療法 第2版

石井 宏 編著



Reviewer

田中利典 Toshinori Tanaka

(東京都・川勝歯科医院, 東北大学大学院歯学研究科・非常勤講師)

A4判, 528頁
オールカラー
定価 46,200円
医歯薬出版刊



まさに首尾一貫という言葉がぴったりであろう。

本書は米国ペンシルベニア大学歯内療法科を卒業した石井宏先生, 田中浩祐先生, 横田要先生が軸となり, 彼らのスタディグループの門下生が, また, 専門医の立場として石亀勝先生(矯正)と藤本浩平先生(補綴)が執筆を担当されている。

本文は随所において学術文献に裏打ちされており, それでいて書籍のタイトル通り, 臨床に直結するよう各チャプターが構成されている。日本の歯内療法学に衝撃を与えた第1版を引き継ぎ, さらに外科的歯内療法を内包して今回の第2版が上梓されたことは, 誠に素晴らしい。

多数の著者が集まって, 歯内療法の各分野を論じる書籍は実に多く存在する。そのような書籍では, レベルアップ, すぐに役立つ, といった表現がタイトルに踊るが, 書籍全体に目を通したとき, 内容の一貫性に不安を感じた読者はいないだろうか。これは良くも悪くもそれぞれの著者のバックグラウンドが異なるため, 歯内療法に対するアプローチや考え方が学術的であっ

たり臨床的であったり, 良いえば個性が, 言葉を替えると斑のある内容が共存してしまうことになる。

このような書籍は読み物としては大変興味深い, 学ぶための聖書, すなわち洋書でいえば“Pathways of the Pulp”や“Ingle’s Endodontics”のようなものではなく, 残念ながらそのような書籍は和書ではほとんど見当たらない。

では学生が手に取る歯内療法学の書籍はどうであろうか。それら書籍の編集や執筆はすべて大学の教育者が関わっていて, 誰しも「あの書籍を教科書として使った」というものがあるであろう。こちらの内容は, 歯学教育モデル・コア・カリキュラムや歯科医師国家試験の出題基準といった日本のお家事情に配慮されている。

用語や分類といった知識の整理や国家試験対策には必要不可欠であるが, 実際の臨床で遭遇する疑問, たとえば歯髄保存や再治療の意思決定, 歯冠延長術や痛みのマネージメントなどを, どのように考え, どのように対応するのか, また, その科学的根拠は現時点でどのようなものが存在するの

か, に答えるには, また違った書籍を手にとらなければならない。

以上を踏まえれば, 首尾一貫した本書は歯内療法学を学ぶ和書としてきわめて秀逸である。

ただし気をつけていただきたい。

本書は500ページを超え, 内容も「本気で学ぶ」姿勢がないと太刀打ちできない。なぜなら, 歯内療法は専門性が非常に高い分野であり, かつ, 歯科医師の倫理観も含めて, 科学的に根拠があって良いとされる治療を遂行する強い意志と適切な環境が備わっていないと, 本書を通じて吸収したことが実践できないからである。

日本の歯科医師は皆, 歯内治療を取り巻く現状が非常に精神的・経済的負荷のかかる環境であると心のなかで思いながらも日々奮闘していることであろう。そのようななかで世界基準の歯内治療を実践すれば, 霧が晴れる思いや, 患者からのフィードバックが得られることは間違いない。「学びて時に之を習ふ」で, 本書を通じて歯科医師のやりがいとげつなげていただきたい。